

学校教育目標
いきいき なかよく
りそうに向かって
考動する子

学校だより

京都市立稻荷小学校
校長 大野 利和
平成 26 年 12 月

平成 26 年度 前期学校評価のご報告

稻荷小学校では、保護者の皆様にご協力いただいた「よりよい学校をつくるためのアンケート」を軸に「児童アンケート」「教職員自己評価」の結果をもとに総合的に分析して現状を把握し、今後に向けて、より一層推進すべき点や改善点について考察しました。ご報告いたします。

○児童アンケートの結果

No	項目	そう思う (%)	大体そう思う (%)	あまりそう思わない (%)	そう思わない (%)
1	学校生活は楽しいですか	63	29	6	3
2	元気なあいさつができていますか	58	32	10	0
3	友達と力を合わせて、なかよくしていますか	70	26	3	1
4	学校や学級のルールが守られていますか	57	37	6	1
5	先生の話をしっかりと聞いていますか	61	22	15	2
6	めあてに向かって、しっかり学習していますか	76	18	4	2
7	授業中進んで発表していますか	47	33	16	4
8	学習でわからないことは先生に質問していますか	53	23	16	9
9	授業がよくわかりますか	70	24	5	1
10	忘れ物はしていないですか	39	37	15	9
11	家庭学習や宿題を進んでしていますか	67	18	10	5
12	掃除や給食の後片付けなどをていねいにしていますか	73	21	6	1
13	困ったことがあれば、先生に相談していますか	54	24	16	6
14	家で学校でのことをよく話していますか	58	25	8	9

児童アンケートから……児童は、学校を楽しみ、友達と力を合わせて仲よく過ごしている。学校や学級のルールも守り、掃除や給食の後片付けなどもできている。学習については、めあてに向かって、しっかり学習している児童が多く、家庭学習にもまじめに取り組んでいる。6年生対象の全国学力・学習状況調査でも同様の結果が表れている。しかし、先生にわからないことを質問したり、困ったことを相談したりしている児童の割合は76%と78%で、他の項目と比べると少ない。また、忘れ物をしていない人の割合は、76%である。自ら表現しようとしている児童とできていないと思っている児童もいる。全国学力・学習状況調査児童質問紙「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」と「自分には、よいところがありますか」では、「当てはまる」と答えた児童の割合が、全国や京都府の値と比較すると低く、やや消極的で自分に自信を持ちにくい傾向が見られる。

保護者アンケート・教職員自己評価から……重要度については、保護者も教職員も15項目すべてが重要であり、学校教育を進めていくうえで大事にしていくことであることを確認できた。保護者は、学校を楽しむこと、友達と仲良くすること、学校や学級のルールを守ることは、実現度が高いが、児童と同様に先生にわからないことを質問したり困ったことを相談したりすることなど、自分から働きかけることができていないと感じておられる。教職員は、授業中の発表については、他の項目に比べると低く、また、児童・保護者と同様に児童が自ら教職員に話しかけたり相談したりすることが少ないと感じている。

○保護者アンケート・教職員自己評価の結果

No	項目	保護者		教職員	
		重要度 (%)	実現度 (%)	重要度 (%)	実現度 (%)
1	学校生活を楽しむこと	100	94	100	80
2	元気の良い挨拶をすること	100	81	100	60
3	友達と仲良くすること	99	93	100	67
4	学校や学級のルールを守ること	100	92	100	78
5	先生の話をしっかりと聞くこと	100	71	100	63
6	めあてに向かって学習すること	100	77	100	63
7	授業中進んで発表すること	97	63	100	43
8	学習でわからないことは先生に質問すること	100	48	100	50
9	授業を楽しみ、学習内容を理解すること	100	70	100	71
10	学習用具の忘れ物をしないこと	100	79	100	75
11	家庭学習や宿題を進んですること	99	72	100	86
12	家庭でも掃除や後片付けの習慣を身に付けること	100	56	100	71
13	困ったことがあれば、先生に相談すること	100	59	100	44
14	家で学校での様子を子どもが話すこと	99	85	100	63
15	保護者として、担任に質問や相談がしやすいこと	100	86	100	50

* 重要度は、「重要である」「やや重要である」を合わせた数値、* 実現度は「よくできている」「大体できている」を合わせた数値。

今後の取組

- 各教科・領域において、自分の言葉でまとめ、工夫して表現する言語活動の充実を図る。
- 子どもも主体の問題解決的な学習・授業を構築していく。
- 朝のあいさつ運動を継続して取組んでいく。
- 子どもに寄り添い、いじめのない一人一人が大切にされる学級づくりをめざす。
- 家庭学習の取組や忘れ物をなくすことなど、低学年から身に付けた習慣が継続するよう、家庭と学校との連携や協力を大切にしていく。